

情報連絡員報告・11月分

前月に続き製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIが好転

～非製造業では売上高のDIが好転～

<東京都中央会>

11月の情報連絡員報告によると、2ヶ月連続で前月と比べて製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDI(前年同月比)が好転した。非製造業では収益状況と業界の景況のDIは前月と同じ数値であったが、売上高のDIは好転した。

特記事項からは鉄鋼・金属業界や電気機器業界より「仕事量が増加した」、「稼働率が高水準となった」、また「設備の更新や増設等の需要が増えてきた」という報告がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計

特記事項欄より

「食料品」

- ・例年のように商況は良好とは言えないが、歳暮・進物・お正月用の需要は例年並みに期待できる。

「繊維・同製品」

- ・季節的に仕事量が増加し、売上は伸びたが、加工賃の単価は変わらないので経営状況は依然として苦しいままである。

「木材・木製品」

- ・売上は若干ながら好転といったところで仕事量も増えているが、収益まで好転したとはいえない。組合員数の大幅な減少はなく、おちついたようだ。

「鉄鋼・金属」

- ・11月の商況は超繁忙状態となっている。建設需要や地上波デジタル化への移行もあり、各社とも稼働率は高水準にある。しかし、主原料である銅の高騰分の価格転嫁はほとんど達成されていない。
- ・自動車、工作機械、造船関係は順調に回復しているが鋼材、原油の再々値上げが一段と加速し、価格転嫁しにくい状況に加えてコストダウンの要請で収益性は悪化している。

「電気機器」

- ・仕事量は年末に向けて十分確保されている。採算性も好転の気配が見られる

が、不透明感はまだ強い。工場の設備更新、増設等の需要が増えてきたようだ。

「卸売業」

- ・電力会社向け電線をはじめ、通信用、工専用等すべての分野で多忙をきわめており、一部では品不足に陥っている。高騰した銅価の価格への転嫁が実現していないのでユーザーと必死に交渉している。
- ・例年であれば流通段階での取引が活発化し、在庫量もクリスマス商戦に向けて増加するところだが、一向にその気配が見られない。加えて一部商品には値崩れ現象も見られるなど、厳しい状態にある。

「小売業」

- ・豆乳ブームに陰りが見られるようだが、大手量産のブランド豆乳が売れず

ぎて、豆腐の消費量が減少しているように思われる。

「サービス業」

- ・行政回収の資源物抜き取りは依然として後を絶たない。各区のリサイクル組合では区や警察と協力して抜き取り防止のためのパトロールを始めている。

「商店街」

- ・金融機関の統合がさかんだが、吸収された旧金融機関との約束が新しい金融機関では認められず、各種のトラブルが発生している。零細企業には急速な方針転換への対応は困難。

< 要望事項欄より >

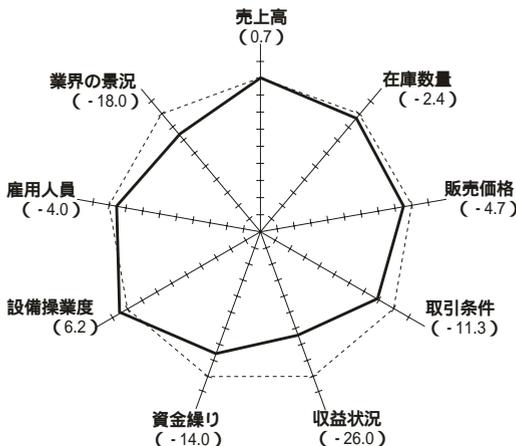
- * 汚染土壌対策等、多額の費用が必要なことに対する助成を要請する。

【鉄鋼・金属】

- * 増税よりも歳出の削減が先ではないか。

【鉄鋼・金属】

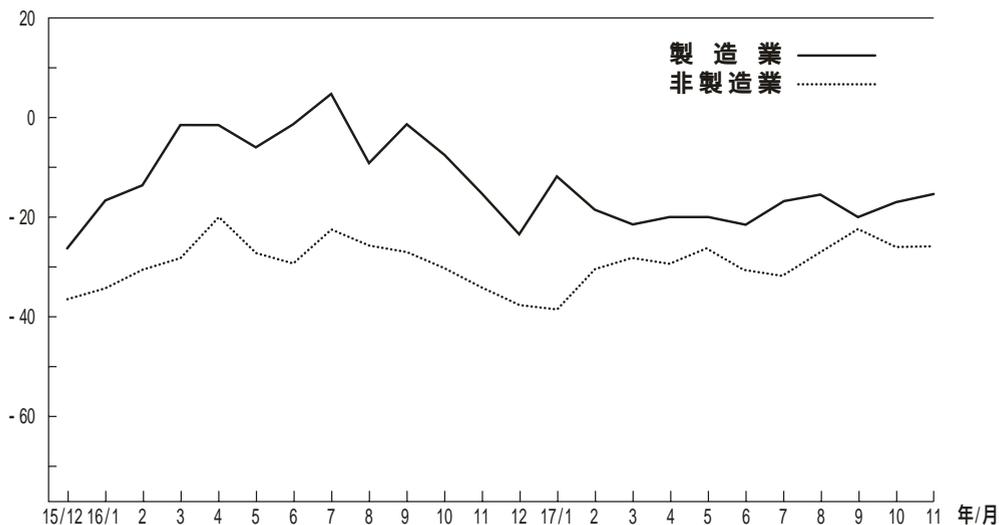
11月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

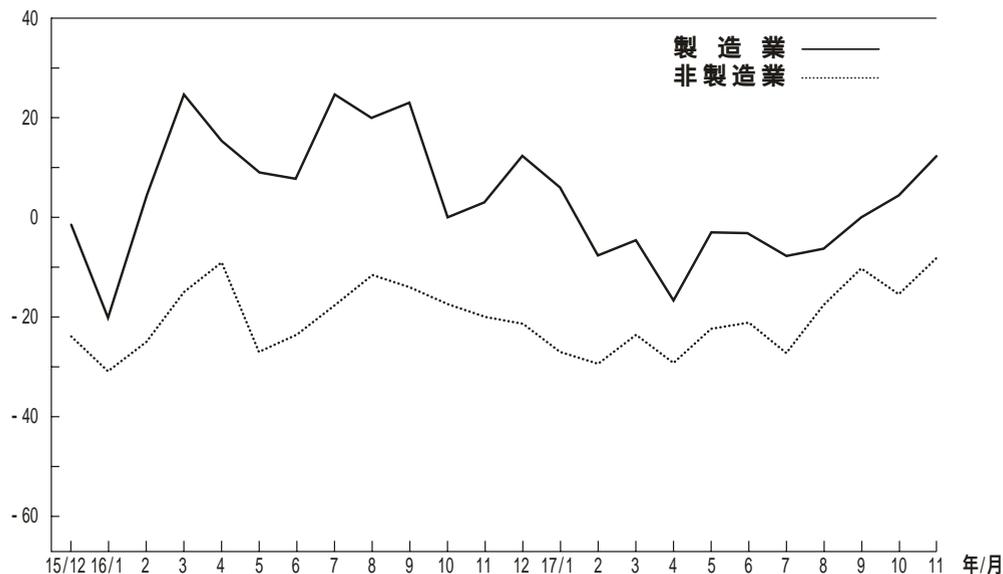
業界の景況DIの変化 (H15.12 ~ H17.11)

(前年同月比)



売上高DIの変化 (H15.12 ~ H17.11)

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。